

# 食流機構

公益財団法人 食品等流通合理化促進機構

<https://www.ofsi.or.jp/>

2025

7  
月号

No.355

## I N D E X

- 巻頭言 ②
- 理事会・評議員会 開催報告 ④
- 食品流通構造改善緊急対策事業のご案内 ⑤
- 〈国土交通省〉  
船舶へのモーダルシフト推進にご活用ください！ ⑥
- 〈農林水産省〉  
日本産水産物の中国向け輸出再開に  
必要な技術的要件について合意しました ⑥
- 〈商工中金〉  
「中小企業の海外進出・輸出に関する調査」の公表について ⑦
- 食流紀行 ⑧

# 巻 頭 言

6月1日、ウクライナの特殊作戦でロシアの複数の軍事基地が同時にドローン攻撃を受け、10機以上（ウクライナの発表では41機）の戦略爆撃機等が破壊されたと言うニュースが流れ世界中を驚かした。

しかし、このウクライナ側の輝かしい戦果は必ずしも戦争の全体状況を示してはおらず、ウクライナ戦争におけるウクライナ側の戦況は芳しくなく昨年の中頃から非常に苦戦を強いられている。背景としては大統領選中のトランプの指示を受けて、共和党中心の米国議会が軍事支援予算の議会通過を数か月にわたりブロックしたこともあって、米国からの武器供与がかなり滞ったことがある。また、米国政府が供与を約束した多額の武器供与の実施は大分遅れているとの指摘がある。

現在トランプ大統領が唱えた停戦や和平に向けて様々な外交努力が行われているが、当面その実現の可能性は非常に低いというのが現状である。

トランプ大統領は大統領選中から自分が大統領になれば就任後24時間以内に停戦を実現すると言っていたが、就任後もうすぐ5ヶ月以上になるが未だ停戦の兆しは見えない。

停戦や和平を巡る米ロや米ウクライナなどのやりとりを見ていると、トランプ政権のロシア寄りの姿勢が極めて顕著である。この背景はよくわからないが、2月におけるホワイトハウスでのゼレンスキー大統領とトランプ大統領の会談がシャウティンゲマッチで終わってしまったことに象徴されるように、米国はウクライナに現状からの変更が困難であることを認めさせて、停戦に持ち込もうとしてきた。トランプ政権がロシアに示した停戦案は2014年にロシアが一方向的にロシアに組み入れたクリミア半島の領有を米国が正式に認める一方でウクライナのNATO加盟を認めないものだと伝えられている。ロシアにとっては願ってもない内容となっている。

プーチンが停戦に応じないのに苛立ったトランプ大統領が追加制裁をほのめかすが、いつまでたってもそれが実施される気配は無い。いろんな報道を見ると、トランプ大統領はロシアとの貿易、ビジネスの再開を望んでいるようである。トランプ政権の自国利益誘導志向は極めて顕著であり、ウクライナに資源協定を飲ませたのもその大きな例の1つである。

そしてトランプ大統領は大国の首脳間による取引、いわゆるヤルタ方式を志向しており、小国の頭越しに小国の運命を決めてしまう恐れがささやかれている。

こういう状況の中で日本はどう考えるべきなのであろうか。

まず1つにはウクライナへの支援のありようである。ウクライナ支援について最近はあまり報道されることがなく、石破政権になってから政権の中心課題ではなくなっている。トランプ政権による停戦への取り組みの行方を見極めようということであろう。ただやりようがあって、大きな声を出す必要はないが、こういう時だからこそNATOがやっているようにウクライナに対する支援の強化が必要なのではないだろうか。

もう一つは我が国の周辺的安全保障環境についてのインプリケーションである。大国同士のディールを志向するトランプが我が国の安全保障に大きな影響を与えかねないとは誰しも思うところだろう。ロシアと北朝鮮が実質的な軍事同盟を結び、これに基づき北朝鮮はウクライナ戦争に兵を派遣している。これは北朝鮮と韓国が戦争になった場合に、ロシアが北朝鮮を助ける可能性が高いということの意味している。

台湾問題に対するトランプ政権の姿勢が我が国に大きな影響を与えることは言うまでもないであろう。米国のヘグセス国防長官は、先般のシャングリラ安全保障会議で中国の海洋進出を非難し台湾、東アジアに対するコミットメントを強調したが、ウクライナに対するトランプの姿勢を見ていると各国はどうしても不安になるようである。

日本としてはこれもまた大きな声で言う必要はないが、防衛力の整備を着実に進めて足元を固め、抑止力を高めていく努力が欠かせない。

ただ、トランプ大統領は、ウクライナ戦争、ガザの戦争、イラン問題等当面する問題に解決の道筋をつけたら、ロシア、中国との間で大規模な核軍縮を実施する構想を抱えているとも伝えられている。米、中、露の3首脳間で歴史的合意を達成したいということのようである。これ自身は実現すれば世界にとって素晴らしいことかもしれない。ただ、問題はそれがどういう形でまとめられるかということである。

この話が現時点で習近平主席およびプーチン大統領とどこまで共有されているか不明である。仮にトランプ大統領がプーチン大統領や習近平国家主席に直接話をしていないにしても、両首脳は各種報道等で当然その辺の事情は把握済みであろう。中露の首脳がこの話に乗ってくるのか、どのように捉えるのか、トランプ大統領との取引に何を使おうとするかということを見ると、それが今後のウクライナや台湾、北朝鮮を含む東アジア情勢に大きな意味合いを持ってくるのではないかと思えてくる。当然、日本にとってはとてつもなく大きな意味合いを持つ。

公益財団法人 食品等流通合理化促進機構  
会長 村上秀徳

# 理事会・評議員会 開催報告

当機構の令和7年度第1回定例理事会（6月3日（火））及び令和7年度定時評議員会（6月19日（木））が開催され、令和6年度事業報告及び決算報告等が原案どおり可決されました。可決された議案の一部については、後日<https://www.ofsi.or.jp/outline/disclosure/>に掲載されます。

また、令和7年6月の定時評議員会をもって任期満了となった理事・評議員ほか役員等について、下記の評議員21名（再任18名・新任3名）、理事28名（再任24名・新任4名）の方々が新たに選任されました。そのうち副会長については、評議員会終了後の臨時理事会（書面決議）において選定がなされました。

## <評議員>

氏名	所属・役職
饗庭靖之	首都東京法律事務所 弁護士
青島英俊	(一社) JFTD 理事・事務局長
浅沼進	フードサプライ研究所 代表
井原 實	協同組合 セルコチェーン 理事長
宇都宮大輔	(株) 日本政策金融公庫 農林水産事業本部 融資企画部 林業水産食品グループ グループリーダー
大隅和昭	(一社) 日本惣菜協会 常務理事
大角 亨	(一財) 食品産業センター 専務理事
神井弘之	日本大学大学院 総合社会情報研究科 教授 (新)
河合 弘	協同組合 全日本洋菓子工業会 専務理事
古川英子	(一財) 消費科学センター 企画運営委員 (前理事)
酒井 純	(一社) 食品需給研究センター 常務理事
島崎真人	(一社) 日本農林規格協会 専務理事
田沢克彦	日本チェーンストア協会 執行理事
坪井良太	(株) 日本政策投資銀行 企業金融第3部 次長兼課長 (新)
長岡英典	(一社) 大日本水産会 常務理事
名原孝憲	(一社) 全国スーパーマーケット協会 産業調査室長 兼 広報課長
瀨口茂樹	日本ビート糖業協会 常務理事
濱名誠久	(株) Mizkan Holdings 取締役 (新)
藤島廣二	東京農業大学 名誉教授
細川允史	卸売市場政策研究所 代表
三宅英貴	ハウス食品グループ本社 (株) 広報・IR部長

(敬称略/任期：令和11年6月開催の定時評議員会終結の時まで。)

## <監事>

氏名	所属・役職
佐藤 卓	(一財) 伝統的工芸品産業振興協会 専務理事
真野康彦	全日本漬物協同組合連合会 専務理事
渡邊正之	全日食チェーン関東協同組合 監事 (新)

(敬称略/任期：令和9年6月開催の定時評議員会終結の時まで)

## <理事>

区分	氏名	所属・役職
会長	村上秀徳	代表理事
副会長	岩沼徳衛	全国水産物商業協同組合連合会 会長
"	原田 篤	(一社) 全国中央市場青果卸売協会 常任理事 (新)
"	吉田 猛	(一社) 全国水産卸協会 会長
"	吉野一久	全国青果物商業協同組合連合会 会長 (新)
専務理事	佐南谷英龍	代表理事
理事	青木 稔	全国青果卸売協同組合連合会 会長 (新)
"	稲垣慶一	カゴメ(株) 執行役員マーケティング本部長
"	大谷 勉	全国魚卸売市場連合会 会長
"	長船宏昭	全国給食事業協同組合連合会 専務理事
"	木納雅康	(一社) 全国牛乳流通改善協会 会長
"	後藤和之	(一社) 日本給食品連合会 専務理事
"	小林 新	日清オイリオグループ(株) 取締役専務執行役員
"	坂本 修	(一社) 日本フードサービス協会 専務理事
"	佐々木余彦	全国茶商工業協同組合連合会 理事長
"	田嶋康正	キッコーマン食品(株) 常務執行役員
"	月田求仁敬	(一社) 全国青果卸売市場協会 会長
"	時岡肯平	(一社) 日本加工食品卸協会 専務理事
"	中村祥典	(一社) 日本外食品流通協会 専務理事
"	早山 豊	全国水産物卸組合連合会 会長
"	平野 実	(一社) 日本ボランタリーチェーン協会 副会長
"	廣川 治	(公社) 日本食肉市場卸売協会 専務理事 (新)
"	福永哲也	(一社) 日本花き卸売市場協会 会長
"	藤井玉喜	全国中央卸売市場関連事業者団体連合会 会長
"	藤木 実	JFEエンジニアリング(株) 流通システム部長
"	保泉清明	東京食肉市場卸商協同組合 専務理事
"	森 佳光	キューピー(株) シニアアドバイザー
"	山崎政治	(一財) 日本米穀商連合会 理事長

(敬称略/任期：令和9年6月開催の定時評議員会終結の時まで)

# 食品流通構造改善緊急対策事業のご案内

食流機構では、食品販売業者、食品販売事業協同組合等の方々が情報化への取組、物流効率化への取組等に必要な設備・機器をリース方式で導入する場合に対して支援する「食品流通構造改善緊急対策事業（略称：緊急対策事業）」を実施しています。設備・機器の新設や更新をお考えの皆様は、是非本事業をご活用ください！

## ○事業の目的

食品流通構造改善促進法に規定する食品販売業近代化事業の一環として、食品販売業の構造改善を緊急に実施することにより、食品流通の合理化と流通機能の高度化を推進します。

## ○事業の仕組

1. 食流機構は、食品販売事業協同組合等のニーズを踏まえ、食品販売事業協同組合等と共同して食品販売事業の近代化に必要な情報機器、物流機器、品質管理設備等の設備・機器を開発し、（食流機構が業務委託している）リース会社を通じて取得します。
2. 食流機構は、リース会社が設備・機器を取得する際に要する経費の一部を負担します。
3. 食流機構は、取得した設備・機器をリース会社を通じて、リース方式又は割賦方式で食品販売業者に引き渡します。
4. 食品販売業者は、導入した設備・機器の取得に要した経費（設備・機器の価格）、諸経費（固定資産税、保険料）及び金利相当額をリース料としてリース会社に支払います。
5. リース会社は、上記2で食流機構が負担した経費を食流機構に返済します。

## ○支援内容

1. 食流機構は設備・機器をリース会社が取得する際に必要となる資金（設備・機器の価格）の3分の2部分についてリース会社に無利息で5年間貸与します。（残りの3分の1部分はリース会社が調達します。）
2. 食品販売業者は、設備・機器の取得に要する資金の借入利息の3分の2相当額が、リース料の低減という形で支援が受けられます。

## ○事業対象者

1. 食品販売業者
2. 食品販売事業協同組合等（食品販売業者を構成員とする法人）
3. 民法第34条に規定する社団法人

## ○対象設備・機器

情報：コンピュータ、  
情報ネットワークシステム、  
POS、EOSシステム等  
物流：冷凍・冷蔵車、  
電動フォークリフト、  
電動ターレ、移動販売車等  
多温度帯：冷凍・冷蔵ショーケース、  
冷凍・冷蔵庫等  
省エネ：各業界固有の省資源型の  
食品製造・加工設備等  
廃棄物：廃棄物回収・保管・  
運搬設備・再資源化設備、  
減量化設備・機器等

### ◆対象とならない設備・機器◆

- × 建物、建築物、撤去費、内装費用、保守料等
- × 店内の照明、空調設備
- × 開発（改良）後、相当の年月を経過しているもの
- × 中古品
- × 店内配送車（カートラック、トレイカート）等
- × 常温ショーケース（陳列棚、棚板、ラック等）
- × マイクロバス等
- × テーブル（作業台等）
- × その他備品的なもの
- × 消費税等税金類、保険料
- × 指導料、研修会費等

## 〈国土交通省〉

# 「船舶へのモーダルシフト推進にご活用ください！」

～中・長距離フェリー、RORO船及び内航コンテナ船に係る積載率動向と「内航海運へのモーダルシフト利用検討ガイド」及び「航路情報一覧」の公表～

国土交通では、中・長距離フェリー、RORO船及び内航コンテナ船に係る積載率の動向を調査し、その結果を令和5年8月より公表しております。

5月28日、令和7年1～3月分の船舶に係る積載率動向が国土交通省HPに公表されましたので、お知らせいたします。

モーダルシフトの更なる推進や、いわゆる「2024年問題」対策の一助として中・長距離フェリー等を活用した輸送のご検討にお役立てください。

### 【積載率動向の公表ページ（国土交通省HP）】

[https://www.mlit.go.jp/report/press/kaiji10\\_hh\\_000158.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/kaiji10_hh_000158.html)

また、昨年度、荷主企業の皆様にもアンケートやヒアリングにご協力いただいた「モーダルシフトに関する内航海運の新規需要調査」の結果を踏まえ、荷主企業や利用運送事業者の皆様向けにフェリー、RORO船、コンテナ船の3つの船種における内航海運のサービスや利用方法、利用検討に向けた手順、内航船を利用することのメリットなどを掲載した「内航海運へのモーダルシフト利用検討ガイド」及び、各社が提供している航路情報をまとめた「航路情報一覧」を作成し、公表されております。

### 【積載率動向及び利用検討ガイド、航路情報一覧（国土交通省HP）】

[https://www.mlit.go.jp/maritime/maritime\\_tk3\\_000104.html](https://www.mlit.go.jp/maritime/maritime_tk3_000104.html)

モーダルシフトの取組については、農林水産省の持続可能な食品等流通対策事業や国土交通省のモーダルシフト等推進事業による支援も行っておりますので、詳細は以下にお問い合わせください。

### 【問い合わせ先】

- ・農林水産省食品流通課物流生産性向上推進室  
TEL（直通）：03-6744-2389
- ・国土交通省海事局内航課  
TEL：03-5253-8111（内線43463、43454） 直通：03-5253-8625

## 〈農林水産省〉日本産水産物の中国向け輸出再開に必要な技術的要件について合意しました

農林水産省は、令和7年5月30日、標記のタイトルで以下のとおり報道発表を行いました。

（農林水産省HP：[https://www.maff.go.jp/j/press/yusyutu\\_kokusai/kisei/250530.html](https://www.maff.go.jp/j/press/yusyutu_kokusai/kisei/250530.html)）

農林水産省は、5月28日（水曜日）、北京において、中国海関総署との間で、日本産水産物の輸出再開に必要な技術的要件について協議を行い、合意しました。

### 【概要】

令和5年8月のALPS処理水の海洋放出に伴い停止されていた日本産水産物の中国向け輸出に関しては、昨年9月に日中両政府で「日中間の共有された認識」を発表し、IAEAの枠組みの下での追加的モニタリングが実施されるとともに、過去3回にわたり技術協議を実施してきました。

5月28日に北京で開催された4回目の技術協議において、日中双方は、中国向け輸出再開のために必要な技術的要件について合意に至りました。今後、中国側の必要な手続を経て、輸出再開が見込まれます。

### 【関連リンク】

外務省報道発表（日中間の共有された認識）

外務省HP：[https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit\\_000001\\_01181.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_01181.html)



## 時代を見る目 ～森は海の恋人

畠山重篤氏が4月に亡くなりました。

畠山氏は「森は海の恋人」の言葉と共に、気仙沼のカキ養殖を成功させ、川の水は綺麗でなければ漁業は成り立たないと、三陸地域の山林で植樹活動を行い、多くの著作や講演によって自然を守る啓蒙活動に取り組み、京都大学のフィールド科学教育センター社会連携教授にもなっている。

雁屋哲「美味しんぼ」にも畠山氏は登場するが、畠山重篤氏、雁屋哲氏は私が昔、勤務していた業界紙のO記者やY記者が可愛がられ、築地市場内にあった新聞社にも時折、訪ねて来られた。カキ養殖場に畠山氏を取材に行き、広告をもらい、カキは嫌いだと食べずに酒をご馳走になった先輩Y記者も今は亡い。

当時の業界紙には名物記者が多く、成ヶ沢宏之進氏もお世話になった一人である。背筋を伸ばし秋葉原駅の昔の階段をスタスタ上がる、名前も立ち居振る舞いも古武士のような方だった。彼の「毎朝4時に起き机に向かう」という言葉に、若かった私はひどく感心した覚えがあるが、私自身が同じ歳になると「書くために起きたのではなく、目が覚めてしまうからではないのか」と思うてしまう。歳月が人をつくるのではない。凡人は凡人のまま歳を重ねるのである。

私は「美味しんぼ」のような、いわゆる「蘊蓄モノ」は苦手である。食べる喜びは美味しいと思うだけで良い。好き嫌いはあるし、育つ家庭の環境もある。

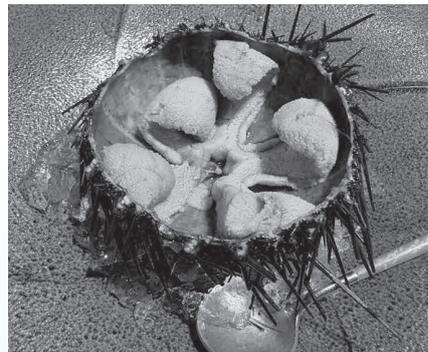
母子家庭の男4人兄弟だったので私の食は質より量である。自分で弁当を作ったが、ご飯にマルハの魚肉ソーセージが好物で、朝、時間がないと生のまま持って行き、齧りながらご飯を食べた。美味しいなと思いつつ食べていた時に級友から生のままでも美味しいか、というようなことを、おそらく悪気なく言われたのだろうが、今も覚えているのはそれだけショックが大きかったのだろうと思う。

それだけに「美味しんぼ」に出てくる北大路魯山人がモデルの海原雄山は馴染めず全ては読めなかった。

魯山人は料理の素材にこだわり、包丁にこだわる料理人であり、その料理を盛る食器を自分で作り、今も美術館に残るほどの陶芸家である。「食べる場」も重要だと料理店「美食倶楽部」をつくり経済界のステータスにまで発展させ、最後は経営破綻した。その破天荒な人生は凡人の好き嫌いを遙かに超えている。

「魯山人の食卓」に彼の言葉として「(女性が) 寿司通仲間へ侵入し、羽振りを利かす時代になってしまった。昔ならほとんど見られなかった風景である」と嘆きつつ「この調子では今にトマトの寿司、コンビーフの寿司、サンドイッチの寿司、トンカツの寿司」が現れるだろうと書いている。(カドカワ文庫14P)

女性が寿司通になったと嘆くだけなら、単なるセクハラ親父である。しかし、魯山人が予言した変わり寿司タネは、今、回転寿司に普通にある。一つの分野を極めると時代の流れが見えるのだろうか。食の世界が混沌としている今、残念ながら私には全く時代が見えてこない。



ウニを食べた。美味しかった。しかし、子供の頃、海岸でウニを石で割って食べた時と、どちらが美味いか分からなかった。

市場流通ジャーナリスト 浅沼 進

### 編集後記

野菜売り場にオクラが出回り始めた。冬場は冷凍のものを食べていたが、やっぱり生のほうが美味しい。収穫体験でオクラを収穫したことがあるが、天に向かって元気よくなっていたのが印象的だった。オクラは英語でもokraというが、別名lady's fingerとも呼ばれるらしい。見た目が女性の指のようにほっそりしているところからきているようだ。今年も暑くなりそうだが、美味しいオクラを食べて元気に夏を乗り切り、ほっそりとして秋を迎えたい。(S)